

令和5年度（中学校）出前授業の成果と今後の方向性

1 令和5年度 出前授業の実績

- 誉田中学校 R5年11月21日(土) 地域ふれあいタイムの一講座として 3学年対象
『郷土に残る「城あと」からわかること』(90分)
- 星久喜中学校 R6年1月17日(水) 1学年社会科(歴史分野)
『星久喜地域の史跡から考える郷土』(50分×2学級)

2 授業の主たる内容

- 誉田中学校
 - * 学区周辺に残る中世の城郭跡「大椎城」「平山城」「土気城」の存在を知る
 - ・ どういう場所に立地していたかを地形図や歴史地図などから探る
 - * なぜここに「城」があったのか、理由を考える
 - ・ 地形だけでなく、街道(陸上交通)や川(水上交通)の存在、周辺地域との関係なども考慮する
 - ・ 「野田十字路」付近で、かつて「野田の合戦」が行われたことを知る
 - * 「誉田地区は、歴史的にどのような場所だったのか？」を自分の言葉でまとめて発表する
- 星久喜中学校
 - * 「星久喜」の町名の由来を、それぞれの漢字をもとに考える(推測する)
 - ・ 古くからあった地で、千葉氏との関係もあった、などを知る
 - * 学区周辺の史跡「月之木貝塚」「荒久古墳」「丹後堰(公園)」「城の腰城跡」を確認する
 - ・ それぞれの存在から、むかしの星久喜地域がどのような場所だったのか考える
 - * 自分が住む星久喜地域に多くの史跡が残ることをふまえて、あらためて地域の歴史を考える

3 授業後の生徒の感想

- 誉田中学校
 - * 城を建てるとき、たかいところなら敵を見下ろせるからとか、川の近くだと物資の輸送に便利とか、いろいろ考慮して造られたんだなと思いました。「誉田は歴史的に・・・」というテーマで、太平洋と東京湾を繋ぐ経路があったり、九十九里浜でとれた魚介などをその経路で運ぶという考えから、物資の運搬が盛んで、重要な土地を繋ぐ「交通の要所」であるという考えを導き出せました。
- 星久喜中学校
 - * 近くに古墳を作れるほどの権力者がいたことにすごくびっくり！・・・すごくおもしろくて楽しかった。
 - * 教科書にのらない自分の住む地域について知れたので、とてもおもしろく、楽しかったです。
 - * 星久喜の町名の由来を知れてよかった。もっと星久喜について知ろうと思いました。

4 本年度の成果・課題と、次年度に向けての考え方

- (1) 千葉市内各地域の歴史・史跡をもとにして「地域の昔を学ぶ学習」を、各学校の地域学習として実施
年度初めに、当館HP上の学習プログラムに「行政区単位」での地域学習を追加したが、実際の依頼は「各学校単位」のものだった。それぞれの学校へ足を運び、校長先生や担当の教諭と具体的に取り上げる歴史・史跡を相談して授業を行った。生徒にとって身近な歴史・史跡は学習意欲の向上につながり、結果として地域への関心を高めることができたと思う。実際に取り扱った歴史・史跡の選択や、学習の進め方にはまだ改善の余地もあり、次年度も継続する場合はさらに興味をもって取り組めるようにしたい。
- (2) 学校の要望に応じた「その学校独自の授業」作りや、「授業の相談・資料の相談」にも対応。
市内には多くの歴史・史跡がある。すでに教材として取り上げられている例もあるが、各学校において具体的にどう扱うか、ほかに適当な教材はないのか等を相談しながら進められるようになるとうい。既成の学習プログラムにとらわれず、その学校に適したより良い形で展開できる授業として対応したい。当館の出前授業として行ってもよいし、学校の先生が授業を行うための資料相談、提供やその補助でもよい。なお、実施学年については検討の必要があるように思う。いずれにしても博物館が提供できる学習として「地域の昔を学ぶ授業」の充実を考えたい。

